

# 彙報

## ○弘前市立図書館の古文書保存運動

当地方口城下町だった関係で一般家庭にも古文書が相当残っているが、それらの価値が認識されずに散佚するのを防ぐため、市立図書館では古文書保存運動を行い、古文書の価値判断は勿論、その保管依頼にも應ずることとなり、成果が期待されている。

## ○杓穀の跡のついた縄文式土器発掘

昨年十二月、南津軽郡田舎館村の耕地整理中の田から、杓穀の跡の残っているツボ（径二一センチ・高さ十五センチ）が発見された。報告により本年四月東北大学氏家田典氏等が来県、同地から杓穀跡のある縄文式土器の破片四個と炭化した米粒五個を掘出した。

## ○弘前城取壊しの年月判明

弘前城取壊しの正確な年月は明らかでなかったが、去る五日、南津軽郡岩館村斎藤馨氏の古文書の中から明治五年の弘前城見取図が発見され、その裏に「南追手門、二の丸御門、御本城すかし御門、御立御門の四カ所。東御門、御座敷前御門（二門）の三カ所と北龜田門、西坂御門、賀田御門のしめて十カ所。

また南二の丸お矢倉、西お矢倉、すかし御門わきお矢倉、賀田向ひお矢倉、御本城西廊お矢倉しめて五カ所は残らず取壊しに相成。弘前本城は明治十七年甲申四月、御取拂に成る。取壊し代六百円也」と記録され、当時の状態と取壊し年月が判明した。

## ○赤御堂遺跡（縄文式早期）から木炭出土

慶應大学江坂輝爾教授一行は三戸郡大館村の右遺跡西貝塚を調査した。四月三十日出土のものには、貝殻、獸骨、石器、土器等のほか、多量の木炭があり注目された。

## ○トカケを形どった動物型石器発見

江坂教授等は引越ぎ三戸郡南郷村荒谷の遺跡を調査し、縄文式晩期の巨倉層からトカケを形どった動物型石器（長さ五センチ・幅二センチ）を発見した。